慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	戦争と信用通貨並に財政（一）
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1918
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.12, No.5 (1918. 5) ,p.641(103)- 654(116)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19180500-0103

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

（廣告主へ御注文の節は三田學會雜誌廣告に依る旨御附記を望む）

△價格表
□高等裁縫部
△セビロ　三ッ揃
金　三十圓以上八十圓位迄
▽オバーコート
金　二十八圓以上九十圓位迄
▽レーンコト
金　廿二圓以上五十圓位迄
▽フロツク（二揃）
金　五十圓以上百圓位迄
其他は御照會により可申上候
□制服部
▽專門學校大學校（立襟）
金　廿圓以上三十七圓位迄

△市内は御報次第參上見本豐富に御高覽に可供候▽
△地方は大略價格御年齢御報被下候はゞ見本及容易なる採寸法相送り可申候▽

東京　銀座通　尾張町二

澤田洋服店

創業（於米國桑港）一八九一年

其材料の新しい
其型の氣のきいた
其技工の優れたる
▽澤田の洋服は
紳士的氣分に
最も能く融合して
御滿足最も慥かなり

彼れが創業以來三十年に近い永い經驗と厚い信用、それに日々の最善の努力とは廣く深く紳士間に好愛せらるゝ所以である△

は又きがは……にぐ直今……は文注御

電話新橋二三三七
振替口座八八二八

雜錄

戰爭と信用通貨幷に財政（一）

堀江歸一

左に掲載するは、大英學術協會が專門家を委員に擧げて、調査せしめつゝある戰時經濟に關する第三回報告中、信用通貨財政の諸問題に關係ある部分の飜譯文なり。前二回の報告を承け千九百十六年八月四日より千九百十七年八月四日に至る戰爭第三年の經濟財政狀態の評論を主とし、間々戰後の經營に及べるものあり。調査委員はスコツト氏を委員長とし、バステーブル、デヰクシー、ゴンナー、カーカルヂヰー、ニコルソン、パルグレーヴの諸氏を網羅したること前回と異ならず。

第一章　第一節　政治上の事件

政治上の事件を評論するは、本委員會の任務に非ずと雖も、其戰時に於ける經濟財政に重要の關係あり、又將來に關係を及ぼさんとするものに就ては、評論を試みざるを得ず。而して戰爭の第三年に於て、此種政治上の事件の起れるもの三四の多きに及ぶを見たり。其第一は千九百十六年十二月五日アスキス氏を首相とする前内閣の瓦解したる一事にして、之と前後して羅馬尼方面に於ける獨逸の進擊、ブカレストの占領、アゼンスに於ける不滿足なる狀況、獨逸潛行艇の船舶擊沈數增加等專ら人目を惹きたり。新軍事内閣は千九百十六年十二月八日ロイド・ヂヨージ氏を首相として組織せられたるが、新内閣は五名より成り、殘餘の大臣は各行政官廳の

長官たりと雖も、軍事內閣の決定に對しては、何等の發言權を有せず、隨て多數の實業家も亦各官廳の長官に任用せられたり。第二の大事件は露國の革命にして、其進行と相俟つて、破天荒の事變續出し、遂に千九百十七年三月十五日英國下院に於て報告せられたるが如く、皇帝の退位するまでに、局面を進めしめたり。第三の大事件は千九百十七年四月五日に於ける合衆國の對獨宣戰布告なり。蓋し合衆國は二月一日獨逸が中立諸國の船舶に對して、無警告擊沈を行ふ可き旨を宣言したるの故を以て、二月三日獨逸に對する國交を斷絕したるものなるが、更に進んで戰爭に參加するに於ては、聯合諸國の經濟的實力を鞏固ならしむ可きや、論を俟たざるなり。之より前千九百十六年十二月十二日獨逸帝國宰相は獨逸幷に同盟國より英佛露其他聯合國に講和條件を提示するの意思あることを帝國議會に宣明し、次いで十八日に至り、所謂獨逸講和通牒なるもの合衆國大使に交付せられたり。然も獨逸の講和提議なるものは單に講和に關する會議を開催す可しと云ふに止まり、殊に既往に於ける獨逸戰捷の事績を誇大に叙述したるが如き、其眞面目を缺けるを窺ふ可し。斯くて十二月十九日英國の新首相ロイド・ヂョージ氏は議會に於て、獨逸の提議に答へ、聯合諸國は獨逸が既往の行爲に對する賠償、將來の行爲に對する保證を與ふるの意思を表明せざる限り、講和を協議するの準備なき旨を言明したり。隨て本報告公表の當時に於ては、何等確乎たる講和條件は獨逸に依て提示せらるゝに至らず、唯戰爭第四年の八月に於て、羅馬法王は各交戰國に通牒を發して、平和を要望したるが、法王の通牒亦白耳義幷に北部佛蘭西の舊狀維持を主張したるの點に於て、聯合諸國を援助するものとす可く九月中旬獨墺兩國の之に對して公にしたる答書に於ては、白耳義の問題を逸したり。

第二節　物資供給に關する經濟上の問題

若しも將來歷史家が今回の大戰爭に就て、完全なる史論を試みんか、彼等は物資供給上の優越が戰爭の勝敗を決するに大なる効力あるの事實を認むるに躊躇せざる可し。生產力を必要とするの程度は戰爭の進行するに隨て大と爲り、戰爭は大部分經濟的勢力の衝突に非ざるやの觀を呈したるが、一方に經濟的耐久力の限度は富源の分量のみに由らず、此富源を應用する方法の如何に由ることも亦明瞭と爲れり。思ふに近代の戰爭に於ては多量の軍需品を費消せざる可からず。軍需品を交戰地域に運搬するには、廣大なる運輸上の便宜を必要とし、此便を有効ならしむるには、鐵道の敷設、橋梁の架設、道路の開通を必要とす可く、一方に車輛線路等に對して需要を增進す可し。殊に現代の戰爭に於ては破壞的機械の誘導せらるゝもの甚だしく、其製作に勞力を費すもの少なからず。今回の戰爭の爲めに生じ來れる經濟的壓迫が其第三年に入りて漸く大なるに至れるは、要するに軍事上の要求に應ずるの必要より全世界の生產力能力に負擔を加へたるの結果なりとす可し。而して戰時に於ける國民的精力の傾注せらるゝ方嚮は之を左の六項に區別するを得べし。

一、戰鬪力幷に戰鬪に附屬する勤勞。
二、軍艦幷に商船。
三、軍需品幷に運搬材料。
四、戰鬪員又は戰鬪に附屬する勤勞に從ふ者の要する食糧被服。
五、人民一般の要する食糧被服。
六、第三、四、五諸項の物資と間接の交換を行

ふ爲めに輸出する製造品。

總て是等六個の要素は勞力幷に物資に對する需要に於て、互に競爭するが故に、之を調節する爲めに、勞力の科學的動員と物資の節約とを必要とし、他の一方に於て、國民的生產の增殖と一般人民の消費の減縮とを必要とす可し。戰爭第三年に入りて、陸海軍の戰鬪と相對して、經濟上の戰鬪を重要視するに至れるは明白の事實にして、第三年の當初數月間政府は戰爭の遂行に必要なる各種の手段幷に國民資力の節約に就て、人民に訴ふるもの頗る切なるに至れり。千九百十六年十二月前內閣の崩壞したるが如き、畢竟政府が戰爭を遂行するに就て、精力の最大分量を用ふるに物資の最も巧妙なる動員を以てするに、遺憾あることの國民に依て承認せられたるを以て、重なる原因の一とす可きなり。

茲に於てか、新首相ロイド・ヂョージ氏は十二月十九日下院に於て、自己の對戰爭政策を說明するに當り、政府の任務は總ての物資に關する動員を完成し、之を有效ならしむるに在りとし、且つ軍事內閣は一般國民的服役の原則を實行する時機の到來したることを決定したる旨を報告し、次いでネヴキール、チエンバーレン氏を擧げて、國民的服役事務長官に任命したり。蓋し新官職の任務とする所は總て重要ならざる產業(Non-essential industries)より勞力を排除し之を戰爭關係の仕事に就かしめんとするの一事にして、首相は更に此意味を說明し、總ての船舶に對して完全なる監督を加へて、鐵道と同樣の地位に置き、鑛山業にも亦充分の監督を施し食料品に關しては、富者の消費量の過剩なるが爲めに、貧者の消費量に不足を來さしめざるの注意を講じ、其生產に關しては、一平方碼の土地と雖も適當なるものあらんか、之を生產に供用せしむ可しと云へり。既に斯る官職設けられ又如上方針の確定せるに拘はらず、經濟上の見地より云ふときは、總ての物資に關する動員を完成し、之を有效ならしむるの計畫は充分に成效を博したりとす可からざるものあり。即ち戰時に於ける歷代の內閣は、戰鬪に從ひつゝある軍隊の要求を充すには、一般人民をして生產の增殖に力を致さしむると共に、其享樂の標準を戰前以下に低下せしむるの必要あることを看過したり。然も一般人民を强制して、戰前よりも多く勤勞せしめ、又自制を行はしむるは、兵役義務者をして戰鬪の爲めに、最大の犧牲を致さしむると異なるものあるを見ず。急劇過度の節約は個人の不便を招き、又苦痛を加ふる所以たる可しと雖も、是等は勇敢なる兵卒の喜んで當りつゝある不便苦痛に比較すれば、殆ど數ふるに足らざるなり。現內閣は其在任中數多の訓令を發し、生產を增加し、或る貨物の消費を減じ、貨物に關する投機を抑制し、必要品に關する取引を通じて、過剩の利益を貪ることを停止するの擧に出でたり。然も政府が是等の諸方針を實行するに緩怠なりしは、批評の餘地の存する所にして、戰時戰鬪員、物資、勤勞を必要とし、他の要素は總て之を第二位に置かざる可からざるの時に當り、物資勤勞の消費を節約し、不必要なる生產より必要なる生產に勞力を移動せしむるに就て、政府が何等躊躇するものなかる可きや論を俟たざるなり。

戰爭第三年に於て行はれたる重要なる經濟上の諸計畫を擧げんに、千九百十六年十一月十五日商務院長官は政府に於て今回食糧管理官なる官職を設け、從來食糧問題に干與せる諸官廳の行動を統一するの權能を與ふることゝしたる旨を公表し、次いでデヴォンポート卿其長官に任

命せられたり。卿の在職中、旅館、料理店、倶樂部、喫茶店等に於ける食物の消費に加へたる種々の制限は要するに當面の要求に應ずるに足らず、卿亦五月三十一日辭職し、ロンダ卿六月十五日を以て之に代れり。又首相は二月二十三日重要貨物の輸送に要する船腹を得るの目的を以て、特許に據る場合の外多數貨物の輸入に對して、嚴重なる制限を施したり。一方に二月一日獨逸は潛行艇の無警告擊沈を宣言したるが、此方策の効果の充分ならざりしは左の二表に依て、之を知るを得べし。

第一表　浮流水雷又は潛行艇に擊沈せられたる英國商船隻數

各日に終る週間	一、六〇〇噸以上	一、六〇〇噸以下	漁船
一九一七年			
二月二十五日	一六	六	五
三月四日	一五	八	二
同十一日	一二	四	三
三月十八日	一八	八	二
同二十五日	二〇	七	一四
四月一日	一七	一四	三
同八日	一七	二	七
同十五日	一九	九	一一
同二十二日	四一	一五	一〇
同二十九日	三九	一二	七
五月六日	一九	二二	一五
同十三日	一七	五	三
同二十日	一八	九	三
同二十七日	一八	二	二
六月三日	一五	三	五
同十日	二四	一〇	六
同十七日	二五	五	〇
同二十四日	二一	六	〇
七月一日	一六	五	一二
同八日	一三	三	六
同十五日	一五	四	八
同二十二日	一九	三	一
同二十九日	二〇	三	〇
八月五日	二〇	三	〇
七月十五日	二、八二八	二、九二〇	一一
同二十二日	二、七九一	二、七九一	一六
同二十九日	二、七四七	二、七七六	一二
八月五日	二、六七三	二、七九六	一一

第二表　英國諸港に於ける各國百噸以上商船發着隻數

各日に終る週間	到着	出發	遭難せるも沈沒を免れたるもの
一九一七年			
二月二十五日	二、二八〇	二、二六一	一六
三月四日	二、五二八	二、四七七	一四
同十一日	一、九八五	一、九五九	一二
同十八日	二、五二八	二、五五四	二一
同二十五日	二、三一四	二、四三三	一一
四月一日	二、二八一	二、三九九	二〇
同八日	二、四〇六	二、三六七	一三
同十五日	二、三七九	二、三三一	一三
同二十二日	二、五八五	二、六二一	二九
同二十九日	二、七一六	二、六九〇	二九
五月六日	二、三七四	二、四九九	三〇
同十三日	二、五六八	二、五五二	一五
同二十日	二、六六四	二、七五九	九
同二十七日	二、七一九	二、七六八	二一
六月三日	二、六九三	二、六四二	一五
同十日	二、七六七	二、八二二	二〇
同十七日	二、八九七	二、九九三	三七
同二十四日	二、八七六	二、九二三	一九
七月一日	二、七四五	二、八四六	一四
同八日	二、八九八	二、七九八	一六

第十二卷　（六四七）　雜　錄　戰爭と信用通貨並に財政　第五號　一〇九

第一表に據れば、英國船舶の擊沈せらるゝもの最も多かりしは五月六日以前の三週間にして其以後に於ては、聯合國の海軍は敵潛行艇の暴行に對して、相當の監視を加ふるを得たるが如し。八月六日英國首相が下院に於て說明したる所に據れば、最も擊沈數の多きに達せる四月に於て、五十六萬噸を數へ、七月に於ては三十二萬噸に居り、二月より七月に至る六個月間毎月の擊沈噸數より新造船噸數を控除したる高は二十五萬噸なりといふ。

四月十一日に至りて、政府は穀物生產法案なるものを議會に提出したり。同法案は（一）千九百十七年より同二十二年に至る各年に就て、小

麥幷に燕麥の最低價格を保證し(二)農業勞働者の最低賃銀を一週二十五志とし、(三)地主をして現に小作人より徵收するもの以上に地代を引上げしめざることの諸點を規定したるが、其趣意たる要するに穀物の內地產出を奬勵するものに外ならず、些少の修正を經て、八月十七日議會を通過したり。千九百十六年十二月二十日政府は翌年一月一日以後鐵道客車の運轉數を減じ且つ賃金に五割の增率を加ふることを豫告したり。蓋し鐵道業に關係ある勞動者不足し、且つ鐵道材料並に現業員を佛蘭西に輸送するの必要あるを以て、此處置に出でたるものなり。更に四月二十三日に至り、政府は次週以後全國の重要なる製粉所を政府の經營に移す可きことを豫告し、實際に於ては、每時間の製造能力が麥粉五囊以下のものを除き、總ての製造所に右の命令を適用し、七月三十一日には之を小規模の製造所にも及ぼしたり。

第三節　外國貿易

千九百九年以後の各年度並に千九百十七年一月より七月に至る每月の輸出入貿易額を表示するに左表の如し(單位一千磅)。

	輸入	輸出	輸入超過
一九〇九年	六二四、七〇五	四六九、五三五	一五五、一八〇
一九一〇	六七八、二五七	五三四、一四六	一四四、一一一
一九一一	六八〇、一五七	五五六、八七八	一二三、二七九
一九一二	七四四、六四一	五九八、九六一	一四五、六八〇
一九一三	七六八、七三五	六三四、八二〇	一三三、九一五
每年平均			一四〇、四三三
每月平均			一一、七〇三
一九一四	六九六、六三五	五二六、一九五	一七〇、四四〇
一九一五	八五一、八九三	四八三、九三〇	三六七、九六三
一九一六	九四九、一五三	六〇四、一五五	三四四、九九八
一九一六年每月平均	七九、〇九六	五〇、三四六	二八、七五〇
一九一七			
一月	九〇、五六五	五五、二九二	三五、二七三
二月	七〇、九四七	四六、二七九	二四、六六八
三月	八一、一一四	五一、六八一	二九、四三三
四月	八四、五八五	四四、二八九	四〇、二九六
五月	八七、六二〇	四九、七七三	三七、八四七
六月	八六、〇六八	五〇、〇八〇	三五、九八八
七月	九〇、一八二	五四、四二二	三五、七六〇

英國は不利なる貿易差額を以て其常態とし、平和の際には此差額は外國の與ふる利子、船舶其他の仕事に對する支拂に依て、決濟せらるゝものなるが、上記の表に據れば、戰爭の爲めに、差額著しく增加したること爭ふ可からず。如何なる程度まで其增加を致したるや、固より代價の騰貴、通貨の膨脹に由るものあるを以て、正確に之を知る能はずと雖も、增加の二億磅よりも大なる可きは明白の事實なり。蓋し千九百十四年八月以後貿易表は輸入の際英國政府又は聯合國政府の所有に屬する貨物は之を表中に加へざる一方に、輸出には總て聯合國政府の英國に於て購入したる貨物を加へ、單に英國政府の貯藏品中より購入せられたる貨物又は英國政府の購入したる貨物にして自國の商船を以て、運送するものを加へざるの規定なるが故に、貿易表に現はれざる輸入の行はるゝもの多きことを想像するを得ればなり。

今貿易統計を解剖するに、輸入超過額增加の大半は開戰以後に於ける物價の騰貴に基くことを知るに難からず。試に千九百十七年一月二十七日エコノミストより左表を抄出し、貿易の數量に對する物價騰貴の影響を明にす可し。(單位一千磅)

	一九一六年の價格		一九一三年の實額	一九一三年と一九一六年と比較增減	
	一九一六年の實額	一九一三年の物價に據る		數量の增減に由るもの	代價の增減に由るもの	實際の增減
輸入	九四九、一五三	六五五、八六〇	七六八、七三五	減一一二、八七五	增二九三、二九三	增一八〇、四一八

再輸出	九七、六〇九	八三、五二八	一〇九、五七五	減	二六、〇四七	增	一四、〇八一	減	一一、九六六
內國殘存高	八五一、五四四	五七二、三三二	六五九、一六〇	減	八六、八二八	增	二七九、二一二	增	一九二、三八四
輸出	五〇六、五四六	三七九、九一〇	五二五、二四五	減	一四五、三三五	增	一二六、六三六	減	一八、六九九
輸入超過	三四四、九九八	一九二、四二二	一三三、九一五	增	五八、五〇七	增	一五二、五七六	增	二一一、〇八三
輸出入合計	一、五五三、三〇八	一、一一九、二九八	一、四〇三、五五〇	減	二八四、二五七	增	四三四、〇一〇	增	一四九、七五三

上表に據るに、千九百十三年の物價を以て、千九百十六年の數字を改訂するときは、輸入超過額を三億四千四百九十九萬八千磅より一億九千二百四十二萬二千磅に減ずるを得べし。思ふに戰時輸出入貿易の差額を大ならしめたる一原因の運賃並に保險料の上進に存するは疑を容れず。蓋し商務院の報告に於ては、輸入品價格は手數料、保險料、運賃を含み、輸出價額は單に手數料並に積込費用を含むに止まればなり。戰時多數の人が戰爭に從事する爲めに生產業を去り、又軍需品の製造に從事するに至れるに拘らず、千九百十三年の代價を基礎として、改訂したる千九百十六年の貿易統計が前記の如くなるは、戰時に於ける英國生產力の膨脹性を證明するものに外ならず。然も輸入は國民の健康を傷けざる程度に於て、消費を節減し、又內國生產を增進せしむることに依て、之を抑制するを得べき道理にして、此點に於ける國民の努力は未だ其最高限に達せざるの觀あり。

更に千九百十四年より同十六年に至る三年間の金銀貨地金の輸出入に就て商務院の報告を見るに左の如し。

	輸入			輸出		
	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一四年	一九一五年	一九一六年
金貨金地金	五八、六四二、二二磅	一〇、八二八、三六六磅	一七、七九〇、三〇二磅	三〇、五九九、〇五〇磅	三九、二二八、一二三磅	三八、四四八、九一二磅
銀貨銀地金	一一、九五二、七九〇	一〇、五六〇、一六一	一三、六七七、六五〇	〇、八八九、〇七五	七、三六〇、五七六	一〇、七四一、三四二

即ち英國より輸出したる金の其輸入に超過したる高は千九百十四年より千九百十六年に至る三年間に於て、二千一百萬磅に止まれることを知るを得べし。

第四節　物價と生活費

物價騰貴の勢は戰爭の進行と共に甚だしきものあり。千九百十六年七月末百九十一・一に止まれる卸賣代價のエコノミスト指數は千九百十七年七月末には三割三分を增して二百五十四・四と爲り又千九百十六年七月百三十・五に居れる卸賣代價のステーチスト指數は千九百十七年七月には三割六分を增して百七十七・七と爲れり、試に開戰以來各月に於ける指數を擧ぐれば左表の如し。

	一九一四年		一九一五年		一九一六年		一九一七年	
	ステーチスト	エコノミスト	ステーチスト	エコノミスト	ステーチスト	エコノミスト	ステーチスト	エコノミスト
一月	八三・五	一一九・〇	九六・四	一三六・五	一二三・六	一七四・五	一五九・三	二二五・一
二月	八三・八	一一八・九	一〇〇・九	一四二・三	一二七・〇	一八二・二	一六四・〇	二三〇・五
三月	八二・八	一一八・〇	一〇三・七	一五〇・二	一三〇・四	一八二・四	一六九・〇	二四〇・九
四月	八二・三	一一七・五	一〇五・九	一五一・二	一三四・二	一九〇・五	一七三・〇	二四四・五
五月	八二・三	一一八・〇	一〇七・二	一五一・二	一三五・四	一九六・三	一七五・〇	二四六・〇
六月	八一・二	一一五・九	一〇六・四	一四七・七	一三一・〇	一九一・五	一八一・二	二五六・六
七月	八二・四	一一六・六	一〇六・四	一四九・一	一三〇・五	一九一・一	一七七・七	二五四・四
八月	八七・九	一二二・六	一〇七・〇	一四九・八	一三四・五	一九八・七		
九月	八九・三	一二六・四	一〇七・八	一五一・六	一三四・四	二〇一・〇		
一〇月	八九・八	一二四・二	一一〇・〇	一五三・二	一四一・五	二〇八・七		

一一月	八八・八	一二五・五	一一三・一	一五九・一	一五〇・八　二一七・二
一二月	九一・六	一二七・三	一一八・四	一六五・一	一五四・三　二二三・〇

故に千九百十四年七月と千九百十七年七月とを比較し、卸賣相場はステーチストの指數に於て一倍一六を、エコノミストの指數に於て一倍一八の騰貴を告げたりとす可く、更にステーチストの調査に據れば、食料品の代價に一倍二七、原料品の代價に一倍一三の騰貴を來したるものとす。

次に食料品の小賣相場に就て見るに、商務院勞働月報に據れば、千九百十七年八月一日に於ては、千九百十四年六日三十日に比較し一倍〇二の騰貴を示したり。但し商務院の指數は戰前各種貨物の家計に於ける消費高を標準として、比例的に輕重の差を設けて、編成したるものなるを以て、戰時食品目錄に於ける變更に依り殊に戰時所得の增加せざる家庭に行はるゝ節約に依り、事情の異なるものあるは免かれ難き所なり。

通例勞働者の家計に關係ある各種の費用殊に食物、家賃、被服、燃料、燈火等に就ては、商務院は千九百十四年六月三十日と千九百十七年八月一日の兩時期に於ける各種項目の同一種類並に同一分量を標準とし、增稅に伴ふ騰貴を除外し、後者の前者よりも七割五分高に居ることを調査したり。

第二章　第一節　通貨

戰爭第三年に於ては紙幣增發以外に、通貨に大なる變動を生ぜざりき。千九百十六年八月二日と千九百十七年八月一日とを比較し、政府紙幣並に同證書の發行高に四千八十六萬七千百二十八磅を增加したるが、其增加額は公衆が貨物勤勞の代價の騰貴したる爲めに、自然に之を吸收し、又銀行が支拂準備金を增加する爲めに、手元に保留せらるゝことゝ爲れり。而して一磅紙幣の意匠は改正を受け、千九百十七年二月一日以來從前に比して、厚く背面に議院の圖を現したる紙に印刷せられ、且つ「千九百十四年八月六日の通貨銀行紙幣法に據り、倫敦英蘭銀行に於て要求に應じて、金貨を以て支拂はるる」の文字は依然として新意匠の紙幣にも記されず。此文字の存せざる爲めに、政府紙幣の流通に就て、人民の間に不安の念を懷く者ありて、正貨保藏の風を促すは明白の事實にして、此幣を除くには紙幣に右の文字を印刷するの必要あるや論を俟たず。「バルグレーヴ」氏が千九百十七年七月此問題を論じ「事實上政府紙幣は英蘭銀行本店に於て、正貨を以て支拂はるゝと雖も、此事は一般の知る所と爲らず、又實際支拂はれたる高は甚だ少なく、吾人は今日流通價格の低落したる紙幣の不便と損失とを蒙りつゝあるものなり」と述べたるが如き、一の觀察として承認す可き所なり。今開戰以來政府紙幣に關する計算を示せば左の如し。

	政府紙幣現在高	金貨	金塊	金貨準備率	政府證書	英蘭銀行殘高
		磅	磅	割	磅	磅
一九一五年八月四日	四六、七二九、六四〇	二八、五〇〇、〇〇〇		六・一	九、五八五、八二八	七、四三七、二八七
一九一六年八月二日	一二七、六七四、四〇八	二八、五〇〇、〇〇〇		二・二四	九二、七〇四、七二二	八、五八三、六〇五
一九一七年八月一日	一六八、五四一、五三六	二八、五〇〇、〇〇〇		一・六九	一四一、五九〇、六五五	五、一五八、六四一

政府紙幣は千九百十四年八月七日始めて發行せられ、時に市中銀行に於ける支拂準備金の變動に依て減少したることありたれども、結局相準備勘定

次いで增加し、右の高に達したるものなり。諸

銀行の紙幣發行高も亦左の期間に於て增加した　ること左表に示すが如し。

各日付に先だつ四週間平均流通高

英國銀行		英國個人銀行		英國合資銀行		合計	
一九一四年七月八日	二九、一〇九、一四九磅	一九一四年七月四日	六二、五七八磅	一九一四年七月四日	一九、一三五磅		二九、一九〇、八六二磅
一九一五年七月七日	三三、九四六、四八〇	一九一五年七月三日	八三、九一二	一九一五年七月三日	二五、六三八		三四、〇五六、〇三〇
一九一六年七月五日	三五、七〇八、九六六	一九一六年七月一日	九四、七六七	一九一六年七月一日	三〇、六四七		三五、八三四、三八〇
一九一七年七月十一日	三九、三五八、〇八一	一九一七年七月七日	一一五、〇四三	一九一七年七月七日	二八、七三四		三九、五〇一、八五八
		愛蘭諸銀行		蘇格蘭諸銀行		合計	
一九一四年七月十八日	八、〇三八、三九六磅			七、九九〇、一一八磅		一六、〇二八、五一四磅	
一九一五年七月十七日	一三、二五九、八〇二			一一、三七二、二七九		二四、六三二、〇八一	
一九一六年七月十五日	一七、三六五、七七六			一四、五二〇、三八五		三一、八八六、一六一	
一九一七年七月十四日	二〇、〇六九、二九七			一七、四五一、五七五		三七、五二〇、八七二	

今や金貨は全く流通上に影を收めたるが、時に些細なる額の銀行に回收せらるゝことあり。又千九百十七年一月十二日より二日十六日に至る軍事公債の發行に際し、少數の應募者は各自の家庭に貯藏したる金貨を以て、應募金の全部又は一部を支拂ひたるものあり。戰時小切手の使用の著しく增加したるは注目す可き事實なり此點に就て大藏大臣は千九百十七年五月二日下院に於て前年度印紙稅の收入を論ずるの傍ら、「一片印紙に依て徵收せられたる收入は二百萬磅を超へたり。此金額たる戰爭以前に比較して空前の增加を示したるものなるが、其原因は專ら小切手の使用に基き、小切手は戰爭の進行中通貨の一形態として、著しく其使用を盛ならしめたり」と云へり。

西比利亞の經濟的意義（中）

阿部秀助

四

「トランス・バイカル」に於ける住民の大多數は農業を主とするものにして、此地方の農產物としては春小麥、豆類、燕麥、大麥、蕎麥等にして、又た少數の地方には黍、亞麻及大麻を產す、次ぎに馬鈴薯は本州內各地に產するも、其數量は僅かに家庭の需要を充たすに過ぎず、尙ほ土地は自由に使用し得る結果、別に作物上、强迫的の轉作なきも、しかも、自然に斯くの如き現象を見るに至り、又、屢〻休田として取扱はるゝ田地少からず、次ぎに一般の通則としては肥料を使用することなきも、時に數年前より動物的養料を使用する處あり、次ぎに千九百十年及十一年の兩年に於て一「エーカー」に對する播種、平均收穫高、最高收穫高を擧ぐれは左の如し。

農作物	播種量	平均收穫高	最高收穫高
	封度	封度	封度
秋期ライ麥	八〇—二四〇	八四三	二一二三
春期ライ麥	六七—二二七	六四二	二三七三
小麥	六七—二二七	五六〇	二一六〇
燕麥	八〇—二六八	五七三	二二九三
大麥	六七—二二七	六二九	三二〇〇
蕎麥	四〇—一七四	四九三	一三三三
馬鈴薯	四〇〇—二六八〇	五六二〇	二六六六七

以上、作物の播種は五月初旬を以て始まり同月下旬又たは六月初旬を以て終るを常とす、又晩春及初秋に於ける霜害と風水の厄難とは本州に於ける農業の發達に對する非常なる障害たり尙ほ野菜類の栽培は本州到る處に見るも何れも小規模なり、蓋、本州に於ける野菜類の價格が比較的高價なることが此業の發達を促かすに不拘、今日に至る迄此方面に對し何等注意の拂は